

セッション	3	事業名	独立行政法人国際交流基金運営費交付金 (海外日本研究・国際対話事業)
-------	---	-----	---------------------------------------

総論

●国際交流基金が行っている運営費交付金事業の中でも重要な事業との認識。

●広範かつ深い対日理解の促進やネットワークの形成・強化という本事業は、日本のソフトパワー向上という観点で重要な事業であると考えられる。

●(分野にもよるが)日本研究への関心が必ずしも高まってはいない状況や他国・民間組織等による研究資金も充実している状況を鑑みて、より効果性の高い事業とすることが求められる。

●50年以上継続している事業である。我が国に対する諸外国の理解を深めることは国益に資することであり、継続する意義はあると考える。

●近年の環境変化を踏まえると事業の重要性は増々高くなると思われる。そのなかで、コストの妥当性、成果とコストのバランス、効率性、経済性の確保についても十分に留意が必要である。

●わが国にとって知日派の育成や海外各国との相互理解を深めてい

くことは、過去も現在も重要である。

●他方で、国内外の環境も大きく変わるなか、過去の成功体験にこだわることなく、新たな取り組みに踏み出しながら、わが国外交の観点で望ましい取り組みを開拓する必要があるのではないか。

EBPM

●事業の性質上、精密なEBPMを行うことは難しいことを踏まえると、現時点では、一応可能な範囲で実施されていると考えるが、将来的には、長期的アウトカムについて、もう少し客観的な指標が設定できないかの検討が必要である。

●効果・発言経路は2ルート設定しているが、長期アウトカムが適切かは疑問である。現状設定されているのは短期・中期アウトカムとし、長期アウトカムは事業目的を連動させる必要があるのではないか。長期アウトカムは時間をかけて実現するものと理解している。

●有識者ヒアリングでは、アウトプットの目標は難しいとの説明であったが、目標設定がないと、短期的な活動の評価はできないのではないか。

●海外における日本研究に対する関心の低下を本事業だけで支えることは不可能である。関連府省（例えば共同研究であれば文部科学省、国際研究会などの開催では観光庁等）と連携をして、広がり（スケー

ル)のある取り組みを行う必要がある。本事業のスコープの範囲での閉じた取り組みに矮小化せず、外交の観点で目指すべき目標とのつながりを意識しつつ、取り組みのアウトカム指標を見直すのが良い。

改善点

- 毎年多くの支出が行われている。効率的・効果的な支出については、毎年度の課題であるので、今後も引き続き検討していただきたい。また、セグメントシートの見せ方として、事業別や内容別（助成金、委嘱等の契約）に区分して表示しては如何か。
 - 事業の実施方法については、いろいろ新しい試みを取り組んでいくようであり、引き続きこのような対応を維持していただきたい。
 - 助成に対して一定の応募があること、助成を受けた者が助成に対して高評価を行うことはある意味当然であり、それで十分とするのではなく研究分野の多様化・高度化へ向けた具体的な取組が求められる。
 - 外交上のわが国の国益に資する取り組みに本事業がつながるように、また「信頼醸成」という名のもとに現状の取り組みを肯定化することのないように、ある程度の頻度で改善につながる振り返りができるように、事業の質を高めるような指標を検討するのがよい。
-

その他

●間接経費について、削減できる余地がないかについては常に留意が必要である。

(了)